

(2) 調査結果 <要約>

◆次世代層が、北方領土問題に対して「自分ごと」として捉える際のポイントは大きく2つ。

- ①北方領土問題が「返還」を声高に叫ぶ活動だけでなく、ロシアとの「交流」を軸にした活動が加わっているという事実を伝える
- ②自分たちと年齢の近い若者(次世代層)が北方領土啓発活動に携わっているという事実を伝える

◆情報発信で効果的なテーマ

多くの対象者から、「日本の領土であるという根拠となる事実」「ロシアに不法占拠されているという事実」「北方領土に居住するロシア人との交流活動(ビザなし交流等)」「エリカちゃん」が挙げられた。

その他に、「北方領土に関連する歴史的事実(日露通好条約など)」や「ロシア語での主張」、「元島民の話」、「当時の島民の暮らし」など、いずれも自らが今回の視察調査を通じて、理解が深まった要素が中心となっている。

◆北方領土問題の効果的な情報発信としてのアイデアとして、以下のアイデアが出された

- ①今回の視察調査の様子をまとめて、内閣府、根室市役所等のホームページに掲載。今回の参加者がその情報をシェアできるようにする
- ②海上から北方領土を見るクルージングの情報発信
→新しい体験で、発信もしやすい。また、興味も持たれやすい
- ③エリカちゃんを核した情報発信
→イベント会場におけるエリカちゃんのブース展開/キャラバンカーなど
- ⑤北方領土の自然、温泉、観光、美味しいものを情報発信(SNS活用)
→そこを入り口に、「北方領土の現状」(ロシアに不法占拠されていること等)を理解してもらう。
- ⑥領土問題を前面に出さず、「日本とロシアの間での交流」を Youtube、ニコニコ動画で配信。